

名[英語名]						
新しい公共性と協働[New publicness and Coproduction]						
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]						
吉田健一[099-285-3756]						
E-Mail	k5621643@kadai.jp		受講対象	全		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 2分野	開講期	後期木曜3	単位等 2
共同担当教員名						
教育目標のキーワード						
視野・判断力・探求能力/						
学習目標(学生の達成 目標)						
1)「公共性」をキーワードに「国家」「国民」「市民」「社会」「市場」などについて考える。 2)教育・福祉・労働(雇用)問題について、近代化以前の日本と明治期に明治から今日までの間の変遷を理解する。 3)今日の日本の抱える問題を具体的に解決する方策として、過去に学び未来を作るという観点で新しい公共性について考察する。 4)今の社会問題の原因を表層ではなく根本的なレベルで突き止める感性、視野の広さ、教養をもつ。						
授業概要(目的・内容・方法)						
現在「公共性」について議論する事は「市民」と「社会」、「国家」と「国民」、「経済」と「市場」の問題を考える上で非常に大きな問題である。しかし、本講義では原理的、思想的な議論からは入らず、現代の日本で取り分け、関心が高い「教育」「福祉」「労働(雇用)」問題について、日本の近現代に遡って、どの時代にどのような政策がとられ、担い手(官・公・民)は誰であったのかという事について考察したい。公共政策といわれる分野は幅広いが、周知のように「教育」「福祉」「労働(雇用)」問題はどれも現代日本の大きな問題である。今の問題の原因はどこにあるのか?過去にはどのように解決されてきたのか、(また潜在的な問題があったのか)を様々な角度から考察したい。しかし、本講義は「歴史」の講義ではない。未来に向けた「新しい公共性」の構築の為に、近代化の正負の側面をみて考えたい。そして「官」イコール「公」ではないことなどを確認し、但し、国家を悪、市民を善とする二元的な議論に陥らないように国家や政治の役割に十分注意を払いたい。						
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)						
1. はじめに - 日本における公共性の概念とは? 2. 教育の歴史 江戸後期・末期 3. 教育の歴史 明治時代 4. 教育の歴史 大正・昭和時代(戦前) 5. 教育の歴史 戦後から現在 6. 福祉の歴史 江戸後期・末期 7. 福祉の歴史 明治時代 8. 福祉の歴史 大正・昭和(戦前) 9. 福祉の歴史 戦後から現在 10. 労働・雇用の歴史 江戸後期・末期 11. 労働・雇用の歴史 明治時代 12. 労働・雇用の歴史 大正・昭和(戦前) 13. 労働・雇用の歴史 戦後から現在 14. 近代化の正負の側面(教育・福祉・労働) 15. 新しい公共性と協働 近代を乗り越え、過去をヒントに暖かい社会の構築へ						
受講要件	教育・福祉・労働(雇用)問題に関心があり、現代的な課題を解決しようという関心のあるもの。過去に、学びつつ、諸問題を克服して未来を構築しようという関心をもっている事。					
評価基準および方法	(全て出席を前提として) (1)毎回のフィードバックシート(30%) (2)授業に対する参加度、貢献度、理解度(20%) (3)期末レポート(50%)を総合的に判断する。					
教科書	特定の教科書は指定しない。講義で資料配布。右記の参考書の中で関心のあるものは読むことが望ましい。	参考書	『公共政策への招待』進藤栄一編 日本経済評論社(国際公共政策叢書1)2003、『労働政策』五十嵐仁(国際公共政策叢書11)日本経済評論社 2008他その都度指示。			
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【オフィスアワー】毎週水曜日午後 【メール】 【授業後】	その他	事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても議論に来てくれる事を大いに歓迎します。			